

「支え合い自ら輝く地域づくり」を目指して

3月10日(土)に「どうするわが町 暮らしの支え合い」と題して、第6回たてしな住民の暮らし懇話会を開催しました。

佐久市内山で住民が主体となり支え合い活動をされている、いずみ会の大塚和枝さんと磯村聡さんの講演がありました。

誰もが住み慣れた地域で安心して助け合いながら暮らし続けられる「内山」を目指し、集える居場所や相談・支え合える仕組みを住民自身でつくっていききたいとの思いから、平成27年3月から学習会(ワークショップ、エンディングノートの作成、視察見学)を始め、平成28年からは月1回、主に

JAの一角で集いの場を開催したとのことでした。平成29年11月からは、民家を借り受け、毎週1回、だれでも集える場「いずみの家」を開所しました。月1回、お雛祭り、クリスマス会など子供からお年寄りが一緒にイベントを行っています。磯村さんは、5年前に母親の実家がある内山に移住し、子供向けイベントを中心に行事を行っています。いずみ会の活動に参加して、地域の人と交流が深まった・地域に受け入れてもらっている安心感がある・地域(子ども)の未来をより考えるようになった・地域で役割があることへの喜びを感じているとのことでした。



地区ごとにわかれての懇話会では、「子どもの笑い声が聞こえる」「困った時に困ったと言える」「何でも気軽に相談できる」「皆が仲良くあいさつ・話ができる」「誇れるものがある」「災害時、助け合える」「孫が第2のふるさとと思える」地域にしたい。それには「集いの場(交流会、お祭り、イベント等)をつくる」「いいと思うことは自分から進んで実行する」「顔を見て回覧板を回す」「近所で声掛けをする」「誰にでも会った人にあいさつする」「おすそ分けする」「地域で話し合う・勉強する場づくり」などをしてほしいのではないかという意見が出されました。

今後もたてしな“ずく”りの会では、生活支援コーディネーターと連携し、地域情報の収集・発信しながら地域づくりを住民と一緒に考えていきます。

5月5日～11日は「児童福祉週間」です

福祉係

児童福祉週間とは

すべての子どもが家庭や地域において、豊かな愛情に包まれながら健やかに育つことは、社会の宝である子どもたちに対する国民全体の願いであります。児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るため、昭和22年から毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間」と定めています。

平成30年度児童福祉週間標語

『あと一步 力になるよ その思い』

*厚生労働省では毎年9月頃から標語の募集をしています。

各種取組

週間中は全国各地で各種事業及び行事を行います。
詳細は厚生労働省HPをご覧ください。

ぜひ行事にお出かけください